

支援は御“縁”から“始”まります。私たち4人の支援専門員が“縁”あって支援をさせていただくことから『支援→始縁だより』と名づけました。



# 始縁だより

発行 平成22年12月号



**今回は、在宅医療について、研修してきたことを紹介させていただきます。**

「ずっとここで暮らす応援団 いいところ見学会」研修  
愛媛県 「ゆうの森」

「医療法人 ゆうの森」（愛媛県松山市別府町）は、開設者の永井康德医師が、平成12年に四国で初めて在宅医療専門のクリニックを開設した医療施設です。

地域医療では、寝たきりで病院に行きたくても行けない高齢者や、住み慣れた自宅で看取りたいという家族の希望に応えるためには、訪問診療が重要となります。

永井医師は、在宅療養を行ってきて、「医療は患者のためのもの。医療を行うことが本当に患者のためになるのか、どのような治療や方針が最も満足のいくものなのかを考えていくと、医療でできることと患者にすべきことは違う」と思ったそうです。

現に、在宅で看取りをする場合には、本人の「延命治療を行わないで家で看取ってほしい」などのリビング・ウィル（生前の意思）を尊重するために、本人や家族へ選択肢を示し自己決定を支援することを繰り返し、最後は医療を施さず自然に看取ることをしています。

越知町では、山に囲まれ街まで出て行く手段も介護者も居ない現状でありながら、「最後は家で死にたい」という思いで生活している人も多く、在宅医療の重要性を痛感しています。

在宅療養というと、医療を中心に考えがちでしたが、在宅では生活が中心で、医療は生活を補うものとして考えています。また、「老いて逝く」という誰もが通る道を、再度認識した研修でした。



人生の終末について考えられる本を紹介

- ・在宅死のすすめ 網野皓之（著）
- ・平穏死のすすめ 石飛幸三（著）